



背景・課題

- ▶ 水濁法等に基づき、東京湾、伊勢湾、瀬戸内海において8次に涉り汚濁物質の総量削減を実施
- ▶ 水質は改善傾向であるが、依然として**赤潮・貧酸素水塊等の問題が発生**
- ▶ 水産資源(漁獲量等)の減少など**生物多様性・生物生産性の確保、気候変動の影響への適応**等新たな課題も顕在化



富栄養化による課題 (水質に係る課題)

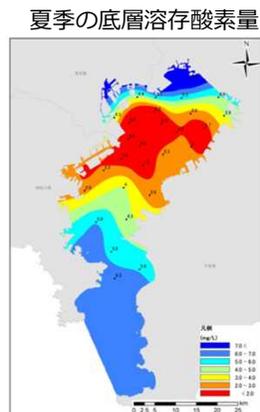
- ▶ **赤潮の発生**
→ H24.7宇和海で10億円被害など
- ▶ **貧酸素水塊(底層DO)の発生**
→ 底生魚介類のへい死
→ 無生物域の形成



青潮



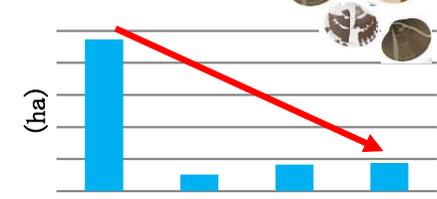
アサリの大量へい死



生物多様性・生物生産性に関する課題

- ▶ **藻場・干潟の減少**
→ 生物の生息・生育の場の減少
- ▶ **海水温、栄養塩類等の水環境の変化**
→ 生物多様性や生物生産性等への影響に関する懸念

干潟面積の減少



藻場(アマモ)



干潟

底層DO等の改善対策

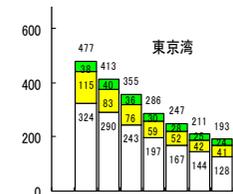
- ▶ 新たな環境基準等(底層DO、沿岸透明度)に係る効果的な改善手法の検討・評価



◇ 環境基準等を踏まえた総合的な水環境改善対策の推進

水質総量削減の方向性の検討

- ▶ 総量削減状況等の把握
 - ・ 発生負荷量等の算定・把握
 - ・ 広域総合水質調査
- ▶ 水質の将来予測



◇ 今後の水質総量削減の方向性の検討

瀬戸内海等の豊かな海の確保

- ▶ 水環境(栄養塩類、生物生息場の状況等)と生物多様性・生物生産性の関係の分析・評価
- ▶ 気候変動の影響と適応策の検討
- ▶ 藻場・干潟の分布状況の把握



◇ 豊かな海の確保に向けた方策の在り方